調査報告

平成 26 年度学校教育課程における進路意識調査

学校教育課程運営委員会
新谷　康浩
斉田　智里

0．調査結果の概要

（1）学校教育課程の学生の 7 割程度が教員志望である。学年ごとに比較すると、入学当初は高いが、1 年生のうちに教員志望の割合が低下している。

（2）希望する学校種は、入学時から学年が上がるにつれて小学校を希望する割合が高まり、中学校を希望する割合が低下している。

（3）教職希望地域は、横浜市と神奈川県が最も多い。

（4）教職志望から非志望への変更の理由は、外の影響や不安などのほかに、授業による影響もある。一方で教育実習を通して、教職志望の割合が高まっている。

（5）教員志望の高さを分析するには、その指標自体を客観的に捉える必要がある。

1．目的

学校教育課程に在籍する学部学生を対象に進路意識調査を実施し、教職志向の実態と変化、その背景となる要因を分析することで、学校教育課程における進路指導の課題を明らかにすることを目的とする。

2．調査方法

2.1　対象と方法

「平成 26 年度進路意識調査」における学年別の在籍者数、調査人数、質問紙の回収率を表 1 に示した。

調査実施時期と方法は以下のとおりである。1 年生にはまず入学時に希望する専門領域などとともに進路志望を調査した。また平成 27 年 1 月の「教育実地研究」授業時に担当教員が配布・回収した。2 年生には平成 26 年 1 月の「教育実習説明会」で一斉に実施した。4 年生には平成 27 年 1 月に就職支援委員会による「就職状況調査」と同時に「進路意識調査」を実施した。例年 3 年生に行っていた「進路意識調査」は、10 月に行った 3 年次春学期アンケートの中で尋ねた進路意識に関する項目を分析することで、その代替とすることにした。

表 1　調査対象及び回収率
(在籍者数は 9 月末日現在、4 年生には過年度生を含む)

	調査人数	在籍者数	回収率（%）
1 年生	228	245	93.1
2 年生	213	237	89.9
3 年生	216	241	89.6
4 年生	205	267	76.8
全学年	862	990	87.1

経年変化の傾向を検討するために、平成 21 年度以降毎年ほぼ同じ形式で「進路意識調査」を実施している。平成 26 年度入学者（調査当時 1 年生）については入学時と 10 月の 2 回分、平成 25 年度入学者（調査当時 2 年生）については 3 回分、平成 24 年度入学者（調査当時 3 年生）については 4 回分、平成 23 年度入学者（調査当時 4 年生）については 5 回分のデータが存在し、本報告書の分析に使用した。

2.2　調査方法

調査内容は以下の通りである。学籍番号、所属専門領域（1 年生 4 月時点での調査では希望する専門領域）、取得を希望する免許、教職志望度（5 件法）、就職を希望する学校種、教職以外の進路希望の有無、教職志望の場合の就職希望地域（複数回答）、進路希望変更の有無（入学時以降）と変更した者には理由に関する自由記述、である。「進路希望変更あり」の場合はその内容（「教員志望から非教員志望」、「非教員志望から教員志望」、「その他」）を選択させ、時期と理由についても自由記述で回答を求めた。調査用紙を付録に掲載した。

3．結果と考察

3.1　教職志望の現状（平成 26 年度）

調査項目③「大学卒業後に教員として就職したいと思いますか」の回答状況を表 2 に示した。

表 2　学年別教職志望状況（入学時とH 27 年 1 月時点）

	とてもそう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答他	総数
1 年生	124	82	18	11	3	6	244
(4 月)	51	34	7	5	1	2	%
1 年生	76	83	29	31	8	1	228
(1 月)	33	36	13	14	4	0	%
2 年生	59	81	26	28	17	2	213
(1 月)	28	38	12	13	8	1	%
3 年生	85	64	23	25	10	9	216
(10 月)	39	30	11	12	5	4	%
4 年生	94	40	14	35	15	7	205
(1 月)	46	20	7	17	7	3	%
全学年	314	268	92	119	50	19	862
	36	31	11	14	6	2	%

「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答した教職志望者数と割合は全学年（1，2，4 年生は 1 月、3 年生は 10 月）で 582 名（67％）であり、学校教育課程の約 7 割の学生が教職志望であることが分かる。学年別にみると、入学時が 206 名（85％）で、平成 27 年 1 月時点では 1 年生が 159 名（69％）、2 年生が 140 名（66％）、4 年生が 134 名（66％）、また平成 26 年 10 月の 3 年生が 149 名（69％）と、入学時の教職志望率が 85％と最も高い。昨年度実施した調査でも入学時から 1 月までに 1 割程度教職志望率が低下したが、今年度の調査では 2 割程度低下している。2 年、3 年、4 年生については 7 割弱でほぼ違いが見られない。

平成 25 年度の調査結果（1 年 74％、2 年 67％、3 年 71％）と平成 26 年の調査結果（1 年 69％、2 年 66％、3 年 69％）を比較すると、1 年生が若干低下している。

一方、「あまりそう思わない」または「全くそう思わない」と回答した教職非志望者数と割合は、全体で 169 名（20％）であり、学校教育課程の 2 割の学生が教職志望でないことがわかる。学年別にみると 1 年生が 39 名（18％）、2 年生が 45 名（21％）、3 年生が 35 名（17％）、4 年生が 50 名（24％）である。

1 年生の入学時点（4 月）では「とてもそう思う」「ややそう思う」が合わせて 85％もあり、これが 1 月には 69％まで低下するので、1 年生の間に教員志望が低下したとみることができる。1 年生の変更内容は教員から非教員への変更が多いが、これは例年通りの傾向である。

3.2　教職志望者の就職希望職種

教職を志望する場合、どの学校種を希望するか尋ねた結果を以下に示す。1 年生の入学時の調査結果では「小学校」希望が 30％、「中学校」希望が 26％、「高等学校」希望が 30％、「特別支援学校」希望が 4％であり、高等学校と小学校の希望者が多かった。

それが 1 年生の終わりには小学校を希望する割合が最も多くなっている。1 月実施の調査項目④の前半「教員として就職する場合、どの学校種を考えていますか」に対する回答（1 年生から 4 年生）を図 1 に示した。

小学校を希望する割合は、1 年 1 月には 40％、2 年生が 43％、3 年生が 48％、4 年生が 55％と徐々に高まっている。中学校を希望する割合は 1 年 1 月、2 年生では 3 割強であるが、3、4 年では 2 割程度に低下している。高等学校希望の割合も、1 年 35％、2 年 31％、3 年 14％、4 年 22％と 1、2 年生のほうが高くなっている。特別支援学校希望の割合はどの学年も 5％程度で一定している。

なお、就職希望職種は 1 つを選んでもらう設問であるが、複数を選択している学生がいるため、合計が 100％以上になっている。そのため入学当初のデータと比較する際には注意が必要である。

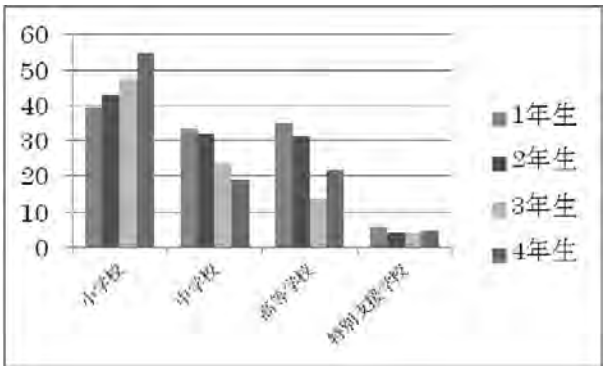


図 1　就職を希望する学校種

3.3　教員志望者の就職希望地域

調査項目④の後半、「教員として就職する場合、採用試験を受けたいと考えている地域に○印（複数回答可）をつけて下さい」に対する回答を表 3 に示した。希望者が多い順に「横浜市」「神奈川県」「川崎市」「東京」となっている。横浜市と神奈川県を希望する割合は、1 年生で 63%、2 年生で 72%、4 年生で 52%となっている。学年により%に違いはあっても、横浜市や神奈川県が主要な就職希望地域である。

3 年生については、3 年次春学期アンケートで該当項目を尋ねていなかったが、この傾向はどの学年でも類似していることから 3 年生についても同様の傾向が見られると予想される。

表 3　就職希望地域（複数回答）

	横浜市	神奈川県	川崎市	相模原市	東京都	その他	未定	総数
1 年生	76	69	17	4	21	58	39	227
2 年生	83	70	18	4	13	60	15	212
4 年生	58	48	20	4	6	40	12	205
計	217	187	55	12	40	158	66	644

3.4　進路変更の件数と時期、理由

調査項目⑥「入学時から現在までに、進路の変更を行いましたか」に対する回答では、「変更なし」が全体の 79%、「変更あり」が全体の 21%であった。（表 4）

表 4　進路変更の有無と内容（上段：人数、下段：割合）

	変更なし	変更あり				総計
		教職→非教職	非教職→教職	その他	小計	
1 年生	199	17	5	6	28	227
	88	8	2	3	12	%
2 年生	173	21	5	13	39	212
	82	10	2	6	18	%
3 年生	161	10	17	12	38	199
	81	5	9	6	19	%
4 年生	134	41	16	14	71	205
	65	20	8	7	35	%
全学年	667	89	43	45	176	843
	79	11	5	5	21	%

表 5　進路変更年次

	変更学年	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
2 年生	教員→非教員	8	13		
	非教員→教員	1	4		
	その他	2	11		
4 年生	教員→非教員	4	6	27	4
	非教員→教員	0	1	12	2
	その他	1	0	9	0

「変更あり」と回答したのは 1 年 28 名（12%）、2 年生 39 名（18%）、3 年生 38 名（19%）、4 年生 71 名（35%）で、学年が上がるにつれて割合が大きくなっている。また表 5 で進路変更の年次をみると、4 年生の場合、3 年次での変更が 73%を占めている。教員から非教員、非教員から教員への変更いずれも 3 年次で最多となっているが、教員から非教員への変化は 2 年次をはじめ他の学年でもある程度みられるが、非教員から教員への変更は 3 年次に集中している。

3 年生を対象とした進路意識調査では、教育実習の事

前と事後で教員として就職したいと思っているか回顧式にたずねているが、これによると、教育実習前には「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせて 58％であったのが、教育実習後にはその割合が 69％に高まっている。このように、教員を志望しない学生が教員志望に変化する大きな契機として教育実習が存在していることがわかる。

4 年生の教員志望変更理由は、教員から非教員、非教員から教員いずれも教育実習が多く、それに次いで外（就活を含む）の世界に触れて変化したものが多い。

なお、外の世界に触れて、あるいは教育実習を経験してという理由は、大学の外で学生が意識を変化させるものであり、大学側で対応可能なものとは言い難い。一方で、大学内部で対応可能な変更理由もあり、それを明らかにすることが教員志望率を高める契機になることも考えられる。

表 6　変更理由

		1 年	2 年	4 年
教員→非教員	外	2	4	16
	不安	1	4	4
	授業	2	5	0
	その他	2	0	1
	実習			16
非教員→教員	外（就活含む）	0	0	3
	不安	0	0	0
	授業	1	3	2
	その他	0	1	0
	実習			9

昨年度の報告書では、1 年次から 2 年次にかけて教職を志望しない割合が高まることが示されたので、1、2 年生の変更理由について検討してみたい。変更者には変更理由を尋ねている。表 6 は、変更理由を書いてもらった内容を「外（教員以外に関心が向いたなど）」「不安（教員としてやっていけるか不安など）」「授業（授業によって志望が変化した）」「その他」に分類した。このように、学生個人の意識が変化したものもあるが、1、2 年生は授業によって志望が変化したものが多いことがわかる。ただし、授業を変化理由とした者には教員志望から非教員志望への変化だけでなく、非教員志望から教員志望への変化した者もいる。特に教員志望でなかった学生が教員志望に変化した理由は、ほとんどが授業であることは、教員志望者の意識をいかに高めるかという点について授業の影響が大きいことがわかる。

授業による具体的な変更例を以下に紹介する。

- 教員には学力以外の資質が必要であることが分かり、自分には子どもたちを育てられる人間性が十分にないと気づいた。
- 周りの学生との間に隔たりを感じた。
- 初等教育法で実践的な授業が増える中で自分には無理だという気持ちが先行した。
- 授業準備に時間をかけて工夫しなければならないにもかかわらず、授業以外に子どもに時間をかけることができないという現実を知って、自分には向いていないと感じた。
- 教員のメリットデメリットが見えてきた。今はデメリットの方が目につくようになった。
- 授業の作り方や配慮すべき点など教師の大変な部分しか学んでいないため、教員への魅力がなくなっていった。

このように、授業に真面目に取り組んでいるがゆえに、現実の教員の大変さと、自分にはそれができないというジレンマが、学生の教員希望を低下させていることがわかる。

これは、現在の教員養成のカリキュラムがもっている潜在的カリキュラムを敏感に学生が察知していると読み取ることができるのではないだろうか。潜在的カリキュラムとは、教員が顕在的に伝えようとすること以上に、児童生徒は潜在的カリキュラムの影響を受けるということである。大学が学生に対して教員の魅力をいくら伝えようとしても、それ以外の目に見えない部分から、教員の大変さを感じてしまっているように見受けられる。

この結果から推察するに、本学部において教員への意識づけは、まず教員の厳しさを 1、2 年生で伝え、その後教育実習で現実の教育現場をみることで「厳しいと聞かされていた」教育現場の魅力に気づかせるという順序で行われているようである。もちろんこれは大学のカリキュラム自体に顕在的に組み込まれたものではなく、学生が潜在的カリキュラムとして受け取る教員への意識づけの順序である。この順序で学生に対して教員の魅力と厳しさを伝えていくのがよいかは今後検討していく必要

があるであろうが、学生の教員志望がどの程度であるのかという点は考慮する必要がある。

本学部に入学した学生は入学時点では教員志望が高いと認識されていたように見受けられる。その根拠の一つとして入学時に行う進路意識調査における教員志望率の高さが挙げられる。しかしその志望率の高さから、実際に学生が強く教員を志望したと捉えるには注意が必要である。「大学教員が望んでいる答えを忖度して回答するのが上手な学生」もいるからである。

そこで、実際の教員志望の度合いをはかる方法の一つとして、教員志望の回答と、⑤「教員以外の進路を考えている場合、現時点で最もその考えに近いものに一つ○をつけて下さい。」の回答結果のクロス集計を行った。⑤に何らかの回答をしているということは、教員以外の進路を想定しているのであり、教員志望で「とてもそう思う」という回答をしているものであっても、これに回答しているとすれば、その「とてもそう思う」という意識はそれほど強いものとは言い難い。

表 7　教職志望と教員以外の進路希望（クロス集計）

	入学時		1 年生 10 月		2 年生 10 月	
教員以外進路希望	なし	あり	なし	あり	なし	あり
とてもそう思う	62	62	46	30	36	22
ややそう思う	14	68	22	61	14	58
どちらでもない	1	20	0	29	3	21
あまりそう思わない	0	13	1	30	1	26
全くそう思わない	0	3	0	8	1	15

表 7 は、その結果を示したものである。

1 年入学時に教員志望で「とてもそう思う」と回答したものは 124 名いるが、そのうち 62 名（50％）が教員以外の進路を挙げている。また「ややそう思う」と回答した 82 名のうち、教員以外の進路を挙げたのは 68 名（83％）である。このように入学当初の学生の意識は教員を第一志望にしている人が多いとはいえ、教員以外の進路も考えているという緩い意識であると捉えることができる。

一方で、1 年 10 月の時点では、教員志望で「とてもそう思う」と回答した 76 名のうち、教員以外の進路を挙げた者は 30 名（39％）に低下しており、2 年生の調査でも 58 名中 22 名（38％）である。このように、「とてもそう思う」という強い教員志望と捉えられる選択肢を選ぶ学生は減少しているが、「とてもそう思う」という回答の中で本当に強い志望を持っていた学生の割合が高まっていると考えられることから、実際の教員志望の度合いは、入学時の回答より 1 年 10 月や 2 年の回答の方が妥当ではないだろうか。

4．今後の課題

以上の結果から、いくつかの課題が見いだせるが、とくに昨年度の報告でも課題としてとりあげられた以下の 2 点について指摘しておく。それは、教員志望率の低下といかに向き合うかという問題と、進路変更にかかわる課題である。

平成 23、24、25 年度の報告でも指摘されていたが、年次進行で教職を志望する者の割合が低下する傾向がまだ見られる。しかし、一部では昨年までとの違いも生じている。昨年までと同様に、1 年生のうちに教職志望から非教職志望へ転じた者の中には、授業を通して教員の大変さや責任の重さに気づき、自分が教職に向かないのではないかと考える学生もいた。だがこれらの学生に対して教職の良い面にも目を向けさせる授業を行えばその不安を払しょくできるのかどうかは、授業内容の検証も同時に必要であると思われる。実際、非教職志望だった学生が教職志望に変化するのは 3 年生に集中している。3 年生を対象としたアンケートによると、教育実習前後で教職志望が高まっており、本学部の場合は教育実習が教員志望を高めていることがわかる。これまで教育実習は現実の教員の大変さを知ることで教員志望を低下させるものであると考えられていたため、この結果はその捉え方とは異なるものである。教育実習による教員志望の変化については、今後詳細な分析が望まれる。

付録 1　平成 26 年度新入生実施調査用紙

平成 26 年 4 月 3 日

学生の進路意識調査（新入生）

学校教育課程長　池田　敏和

本調査は、新入生の皆さんが進路に関してどのような希望を持っているのかについて、現状の把握と経年変化を追跡することを目的としたものです。データは厳重に管理され、個人の回答した情報が教員や外部に漏れることはありません。
この追跡調査を活用して、より望ましい入試のあり方やカリキュラム編成を検討したいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

①現時点で希望する専門領域を以下から選び、第 1 希望と第 2 希望の番号を（　）に記入して下さい（推薦枠で既に専門領域が決定している場合は、その領域の番号を第 1 希望に記入して下さい）。

第 1 希望　（　　）　　第 2 希望（　　）

1.国語　2.日本語教育　3.数学　4.理科　5.社会　6.音楽　7.美術　8.保健体育
9.家庭科　10.技術　11.英語　12.特別支援教育　13.教育基礎　14.心理発達

②現時点で取得を希望している教員免許に○印をつけて下さい（複数回答可）。

1.小学校　2.中学校　3.高等学校　4.特別支援学校　5.その他（　　）

③大学卒業後に、教員として就職したいと思いますか。あてはまるものに 1 つ○印をつけて下さい。

1.とてもそう思う　2.ややそう思う　3.どちらでもない　4.あまりそう思わない　5.全くそう思わない

④教員として就職する場合、どの学校種を考えていますか。最もあてはまるもに 1 つ○印をつけて下さい。

1.小学校　2.中学校　3.高等学校　4.特別支援学校　5.その他（　　）
6. 未定

⑤教員以外の進路を考えている場合、現時点で最もその考えに近いものに 1 つ○印をつけて下さい。

1. 大学院進学　2. 専門学校進学　3. 司書　4. 学芸員　5. 心理職　6. 保育園・幼稚園
7. 教育関連の企業、塾・予備校、習い事教室　8. 教育関連の公務員　9. 福祉・医療関連
10. 教育関連の NPO　11. 教育関連以外の公務員　12. 教育関連以外の企業
13.その他（　　）

学籍番号 □□□□□□□□ 氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

回答ありがとうございました。

付録 2　平成 26 年度　3 年次春学期アンケート調査用紙

8）春学期の過ごし方について後輩（2 年生）へのアドバイスがあればお書きください。

9）教育実習前と教育実習後において，教員志望に関する自分の考えが変わったかどうかに関わる下記の質問にお答えください。

①-1　**教育実習前**、教員として就職したいと思っていましたか。あてはまるものに 1 つ○印をつけて下さい。
1．とてもそう思う　2．ややそう思う　3．どちらでもない
4．あまりそう思わない　5．全くそう思わない

①-2　教員として就職する場合、どの学校種を考えていましたか。最もあてはまるものに 1 つ○印をつけて下さい。
1. 小学校　2. 中学校　3. 高等学校　4. 特別支援学校
5. その他（　　）　6. 未定

②-1　**教育実習後**、教員として就職したいと思っていますか。あてはまるものに 1 つ○印をつけて下さい。
1．とてもそう思う　2．ややそう思う　3．どちらでもない
4．あまりそう思わない　5．全くそう思わない

②-2　教員として就職する場合、どの学校種を考えていますか。最もあてはまるものに 1 つ○印をつけて下さい。
1. 小学校　2. 中学校　3. 高等学校　4. 特別支援学校
5. その他（　　）　6. 未定

③-1　教育実習を通して、**進路の変更を行いましたか。**あてはまるものに○をつけて下さい。
1. 変更をしていない　2. 変更をした

③-2　③-1 で「変更をした」を選んだ人は、その内容についてお答え下さい。
1. 教員志望から非教員志望へ　2. 非教員志望から教員志望へ
3. その他（　　）

③-3　③-1 で「変更をした」を選んだ人は、その変更を考えた理由をお答え下さい。

10）その他，3 年春学期のカリキュラム，教育実習について感じたことがあれば書いてください。

ありがとうございました

付録 3　平成 26 年度 1 月実施調査用紙

平成 27 年 1 月 7　日

学生の進路意識調査

学校教育課程長　池田　敏和

本調査は、学部 1～4 年生の皆さんが進路に関してどのような希望を持っているのかについて、現状の把握と経年の追跡を目的としたものです。データは厳重に管理され、個人の回答した情報が教員や外部に漏れることはありません。
この追跡調査を活用して、より望ましい入試のあり方やカリキュラム編成を検討したいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

①あなたの専門領域に○印をつけて下さい（1 年生は、次年度に所属する領域を選択して下さい）。

1.国語　2.日本語教育　3.数学　4.理科　5.社会　6.音楽　7.美術　8.保健体育
9.家庭科　10.技術　11.英語　12.特別支援教育　13.教育基礎　14.心理発達

②現時点で取得を希望している教員免許に○印（複数回答可）をつけて下さい。

1.小学校　2.中学校　3.高等学校　4.特別支援学校　5.その他（　　）

③大学卒業後に教員として就職したいと思いますか。あてはまるものに 1 つ○印をつけて下さい。

1.とてもそう思う　2.ややそう思う　3.どちらでもない　4.あまりそう思わない　5.全くそう思わない

④教員として就職する場合、どの学校種を考えていますか。最もあてはまるものに 1 つ○印をつけて下さい。　また採用試験を受けたいと考えている地域に○印（複数回答可）をつけて下さい。

（学校種について）

1. 小学校　2. 中学校　3. 高等学校　4. 特別支援学校　5. その他（　　）
6. 未定

（地域について）　1～8 は公立学校、8～9 は私立学校

公立　1.横浜市　2.神奈川県　3.川崎市　4.相模原市　5.東京都
6.その他の地域（地域名：　　）　7.未定
私立　8（地域名：　　）　9　未定

⑤教員以外の進路を考えている場合、現時点で最もその考えに近いものに 1 つ○印をつけて下さい。

1. 大学院進学　2. 専門学校進学　3. 司書　4. 学芸員　5. 心理職　6. 保育園・幼稚園
7. 教育関連の企業、塾・予備校、習い事教室　8. 教育関連の公務員　9. 福祉・医療関連
10. 教育関連の NPO　11. 教育関連以外の公務員　12. 教育関連以外の企業
13.その他（　　）

⑥「入学時」から「現在」までに、進路の変更を行いましたか。あてはまるものに○をつけて下さい。

1.　変更をしていない　（回答は終了です。最後に学籍番号と氏名をお書き下さい）
2.　変更をした　（引き続き、以下の質問にお答え下さい）

⇩

変更の内容についてお答え下さい。

1.　教員志望から非教員志望へ　2.　非教員志望から教員志望へ
3.　その他（　　）

その変更を考えた時期と理由をお答え下さい。

時期　（　　年生　　月頃）

主な理由

学籍番号 □□□□□□□□ 氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

回答ありがとうございました。